

## ポジションで比較したアメリカンフットボール選手の情動状態と スポーツパフォーマンスの関係性

Relation between emotional status and performance of American football player  
who compared it at position

1K06A149

指導教員 主査 岡浩一朗先生

瀧悠太郎

副査 倉持梨恵子先生

競技スポーツではその華々しい一面とは裏腹に、試合前や試合中の心理状態がパフォーマンスに大きく関わってくる。これまでそのような研究は数多く行われてきたが、アメリカンフットボールに関係のある研究はされてなく、私自身がアメリカンフットボールの選手である事もありアメリカンフットボール選手の心理状態とパフォーマンスについて本研究で進めてく。様々な心理状態がある中でも本研究では情動とパフォーマンスの係に着目する。情動はあらゆるスポーツのパフォーマンスに影響している要因と考えられる。Hanin は 1997 年に肯定的と否定的どちらの情動も扱う IZOF 理論を提唱した。この IZOF 理論はパフォーマンスに係のある心理的状态を取り上げ、それらとパフォーマンスの係に重点を置いている。また、心理的状态の中でも個人個人の差がうまれるので、個人にとって重要な心理的状态を主観的に着目している。本研究でもこの IZOF 理論を用いて情動状態とスポーツパフォーマンスをアメリカンフットボールに特化して調査する。その方法としては、アメリカンフットボール選手の情動状態とパフォーマンスの係性を検証するため、情動プロファイリングテストの日本語版を利用し、ベストパフォーマンス時とワーストパフォーマンス時の情動状態を測定し、どのような情動が関わってくるのか分析する。さらにアメフトではオフェンスとディフェンスに分かれていて選手がどちらかだけを担当する事がほとんどの

で、オフェンスとディフェンスの選手で違いが出てくるのかも重ねて研究する。調査対象者は早稲田大学アメリカンフットボール部の選手 37 名（18～23 歳の男性）。研究の結果だが、まず、各選手が自分のベストパフォーマンス時とワーストパフォーマンス時の情動状態に明確な違いが存在することを理解しているのかを評価するために「明確な違い」というものを定義する。そのため、本研究では、パフォーマンスの成否に強く影響する情動が特定できて、なおかつその強度の違いが著しかったものを「明確な違いが理解できた」と定義することとした。その結果、明確な識別ができた選手は 20 名であり、明確な識別が出来なかった選手は 17 名であった。さらに、オフェンスの選手は 18 名中明確な違いが識別出来たのは 11 名。ディフェンスは明確な違いが識別出来たのは 19 名中 9 名で、オフェンスの選手の方が違いの出た選手が多かった。さらに細かくポジションに分けて調べたところオフェンスではクォーターバックが 2 人中 0 人（0%）ランニングバックが 2 人中 1 人（50%）ワイドレシーバーが 5 人中 3 人（60%）タイトエンドが 4 人中 3 人（75%）オフェンスラインが 5 人中 4 人（80%）ディフェンスではディフェンスラインが 6 人中 5 人（83%）ラインバックが 6 人中 2 人（33%）ディフェンスバックが 7 人中 2 人（28%）という結果になった。結果として、アメリカンフットボール選手の情動状態とパフォーマンスの係性を検証し、ベス

トパフォーマンス時とワーストパフォーマンス時の情動状態を測定したが、オフェンスの選手とディフェンスの選手にベストパフォーマンス時とワーストパフォーマンス時の間に明確な識別が出来る、または出来ないという差が生まれるのかという事はわからなかった。しかし、明確な識別ができた選手においては、今後アメリカンフットボールをプレイする際にできる限りそのような情動に近い情動を保ってプレイしてほしい。そのことが今後のアメリカンフットボールの発展につながっていけば、と思っている。